

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 工芸科学部、工芸科学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
工芸科学部、工芸科学研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある

1. 工芸科学部、工芸科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

研究・産学連携体制強化のための大規模な組織再編並びに国際連携による研究活動の推進を行っている。また、質の高い研究論文数、国際共著論文比率、受賞件数、ライセンス収入等が増加している。

〔優れた点〕

- 論文数は平成 27 年度の 479 報から令和元年度の 507 報、国際共著論文割合は平成 27 年の 18.4%から令和元年の 22.3%、Top10%論文割合は平成 27 年の 5.2%から令和元年の 6.5%にそれぞれ向上している。また、第 3 期中期目標期間中の年平均の受賞件数は第 2 期中期目標期間から 14 件増の 38 件となっており、特に文部科学大臣表彰（科学技術賞、若手科学者賞）をはじめ、建築学会賞、優れた芸術評論を発表した者に贈られる吉田秀和賞、世界 3 大デザイン賞と言われる国際的に権威のある iF デザイン賞や IDEA 賞の受賞等特徴的な業績がある。
- 第 3 期中期目標期間と第 2 期中期目標期間との年平均の比較において、競争的資金受入額は 1.6 倍の 571 百万円、共同研究費受入額は 22%増の 215 百万円まで増加している。
- 第 3 期中期目標期間においては、ライセンス契約 45 件を締結し、12,026 千円の収入を得ている。特に、令和元年度のライセンス収入額については、平成 27 年度から 2.0 倍の 5,154 千円に増加している。なお、令和元年度時点の産業財産権の保有件数は 201 件となっており、平成 27 年度から 24 件（13.6%）増加している。
- 全学的な取組の展開により、国際交流が活性化し国際連携による研究活動が促進され、論文の国際共著割合は平成 27 年度の 18.4%から令和元年度の 22.3%まで向上している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、12件、5件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。